

4 徳島県上板町

【基本情報】

○人口 12,570 人

○面積 34.51 km²

○飛行場（徳島阿波おどり空港）から車で約 40 分

(1) 若者支援の背景と現状

ア 若者支援の背景

平成 23 年度において、不登校児童生徒数（小・中学校）1,035 名中 16 名で、全体の約 1.5% であった。前年度からの継続者もあり、事態は深刻化している。

また、学齢期を過ぎても就労をしていない、自宅にひきこもっている若者の問題が顕在化しており、小中学校の段階からの個に対するきめ細やかな支援とともに、学校卒業後も引き続き地域で子どもの成長を見守っていく体制が必要である。そのためには、既存の行政枠組みでの対応には限界があり、行政のみならず、町内外の関係機関、団体と包括的なネットワークを構築し、支援する体制が必要と思われる。

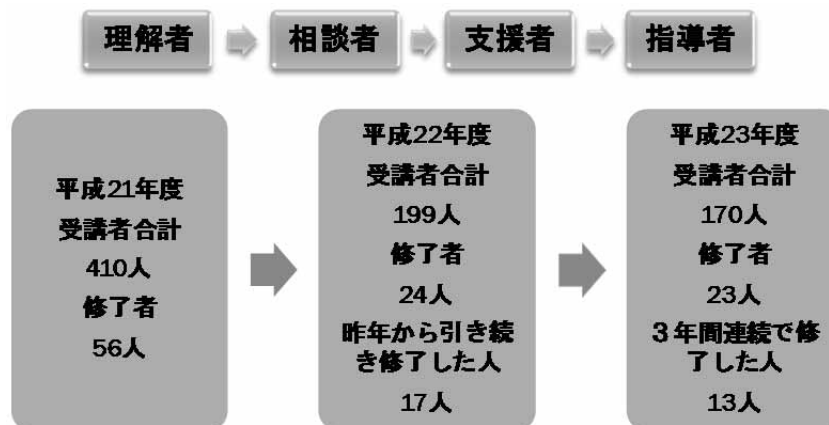
イ 若者支援の現状

上板町では、4 年間にわたり、ユースアドバイザーの養成について、1 年目理解者、2 年目相談者、3 年目支援者、4 年目指導者を育成することを目標に、ステップを踏んで進めてきた。

21 年度は 56 名、22 年度は 24 名、23 年度は 23 名の修了者を育成する等、約 1 万 3 千人の人口規模の町にあって、多くの住民等の理解が深まっていった。

過去 3 年間の取組の結果、理解者及び相談者については、ある程度の人数に達したと考え、今年度は昨年度から引き続き支援者を増やすとともに、指導者の育成に向けた取組を行うこととした。

図表 119 支援者育成の考え方と育成状況



また、平成 22 年 10 月には協議会である上板町子ども・若者相談支援センター「あい」を設置し、相談窓口による対応や個別ケース検討等を重ねてきた。24 年度は、早期発見・早期対応のためのユースアドバイザーの活用等を含め、協議会の具体的な取組を広げるための準備を行った。

(2) 今年度事業の課題と目標

ア 地域協議会運営における課題

(i) 協議会運営全般での課題

上板町では次の 2 点を本年度の重点目標として、協議会の場で議論してきた。

(1) 顔の見える関係での予防と早期発見の仕組づくり

上板町では、人口規模が比較的小さく（約 13,000 人）、近所の顔が見える関係にある。支援が必要な子ども・若者の早期発見のためには、住民の理解と協力が大変効果的であり、ユースアドバイザーの活躍の場は多い。しかし、これまではユースアドバイザーらによる発見、誘導プロセスをうまく組織化、仕組化できていなかった。

(2) 中学校卒業後の情報を支援につなげるための仕組づくり

上板町では比較的顔の見える関係から支援につなげることができる可能性があるが、中学校卒業後は町が把握する情報は弱くなるケースが多かった。これまでも、中学校卒業生には高校等と連携しながら情報把握につとめてきたが、今年度は、現況把握をより確かなものにするために、支援センターへ来所した経験のある子ども（本人又はその家族）を中心に、フォローアップ調査を行うことを検討した。

(ii) スーパーバイズ事業において解消が期待される課題

スーパーバイズ事業では、上記ア. の課題認識から、上板町のような地域のつながりが比較的残っている地域、またユースアドバイザーをはじめ、地域に理解者が多いことを強みとして、予防と早期発見・早期解決に向けたどのような取組進め、どのように仕組化するのかについてアドバイス等を受けた。

イ 課題を克服するための今年度の目標

(i) 協議会運営全般での目標

顔の見える関係での予防と早期発見の仕組づくりに向けて、これまで養成してきたユースアドバイザーや深まってきた関係機関のネットワークをいかに活用するかについて、共通の認識と具体的な方向性を共有することを目標とした。

(ii) スーパーバイズ事業での目標

上記協議会全般の目標と重なるが、スーパーバイズ事業の中では、予防・早期発見に向けた

取組を単発なものせず、いかに仕組化するかという点、また、協議会構成メンバーだけでは十分に留意してこなかった点についてアドバイスを受けることとした。

(3) 今年度の実施内容

ア 協議会運営全般での実施内容

上板町では地方企画委員会 1 回、実務定例会議 4 回を実施した。

	平成 24 年								平成 25 年		
	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地方企画委員会						○					
実務定例会議					○		○		○	○	

(i) 地方企画委員会

町の関連部局職員及び民間支援団体の代表者を集めて実施した。当モデル事業についての理解を深め、地域協議会設立に向けての方針確認を行うことを目的とし実施した。

図表 120 上板町における地方企画委員会実施内容

回	日程	実施内容	
1	10月11日	議 題	・これまでの上板町の子ども・若者支援の取組について ・H24年度の取組について
		概 要	子ども・若者相談支援センター「あい」の活動や平成23年度の実績について紹介。 併せて、今後の取組の方向性について協議。
		運営の工夫、成果	今年度も引き続き関係機関が連携して取り組むことを確認。具体的なケースを共有し、現状の深刻さを共通認識したうえで、今後の取組についての意識合わせが出来た。

(ii) 実務者会議

実務定例会議では、概ね隔月の開催とし、テーマを設定して情報交換と意見交換を行った。

図表 121 上板町における実務定例会議実施内容

回	日程	実施内容	
1	9月26日	議 題	・平成23年度事業報告と24年度事業について
		概 要	・子ども・若者相談支援センター「あい」の活動や平成23年度の実績について紹介。
		運営の工夫、成果	・現状の課題認識の共通化と今後の方向性について協議するため、実際のケースに基づいてワークショップ形式で検討。
2	11月30日	議 題	・関連機関の連携の在り方について

回	日程	実施内容	
			<ul style="list-style-type: none"> 顔の見える関係での予防と早期発見の仕組づくりについて
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> 前回の実務者会議でのケース検討を受けた検討。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> スーパーバイザーの石田教授から、孤独化する子ども・若者の現状や大学と連携した若者支援の活動等について紹介を受けた後で、具体的な取組についての協議が出来た。
3	1月18日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域協議会との連携について 地域協議会の認知度を高めるための取組について
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> 困難や悩みを抱える子ども・若者の早期発見のために、小中学校、高校と協議会がより密接に連携するための取組等について検討。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> 学校とサポステとの連携を先進的に進めるNPO法人「育て上げ」ネットの井村氏から取組内容の紹介を受けた上で検討した。 協議会や町の若者支援の取組の町民の認知度を高めるための施策についても方向性が明確となった。
4	2月5日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> 困難を抱える子ども・若者の早期発見・早期対応の仕組づくりについて 若者の就労等に向けたトレーニングについて
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> 上板町の若者支援の取組が来年度以降も継続的に発展するよう、具体的な取組と仕組づくりについて協議した。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> スーパーバイザーの石田教授を交えて、予防、早期発見・早期対応に向けたユースアドバイザーの組織的な活用（活躍の場の設定）や大学と連携した専門性のある支援の展開等について検討。 協議会又は関係機関において、すぐに取り組むことと、来年度以降取り組むことが明確となった。

(iii) 参加主体

図表 122 上板町における参加主体一覧

		教育	福祉	保健・医療	矯正・更生保護	警察	雇用	その他
地方企画委員会	機関	<ul style="list-style-type: none"> 町内各小学校長 町内中学校長 	<ul style="list-style-type: none"> 町福祉保健課長 徳島県中央子ども女性相談センター 民生委員・児童委員代表 	<ul style="list-style-type: none"> 東部保健福祉局 町内校医代表 	<ul style="list-style-type: none"> 徳島学院 徳島少年鑑別所 保護司代表 	<ul style="list-style-type: none"> 板野警察署 板野西部青少年補導センター組合 	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク鳴門 	<ul style="list-style-type: none"> 子育ていちょう会
	個人	<ul style="list-style-type: none"> 上板町教育委員会教育長 	<ul style="list-style-type: none"> 徳島大学大学院ソシオ・アー 	<ul style="list-style-type: none"> 鳴門教育大学臨床心理士養成コ 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 徳島文理大学准教授 牧裕夫 	—

		教育	福祉	保健・医療	矯正・更生保護	警察	雇用	その他
			ツ・ア ンド・サイ エンス研究 部 准教授 境泉洋	ース教授 葛西真記子				
定例会 議	機関	・町内各小 学校 ・町内中学 校 ・上板町教 育委員会	・町福祉保 健課 ・民生委 員・児童委 員代表 ・徳島県中 央子ども女 性相談セン ター	・東部保健 福祉局 ・町内校医 代表	・徳島学院 ・徳島少年鑑 別所 ・保護司代 表	・板野警察署 ・板野西部青 少年補導セ ンター組合	・ハローワ ーク鳴門	・子育てい ちょう会
	個人	—	—	—	—	—	—	—

イ スーパーバイズ事業での実施内容

(i) スーパーバイザー

石田陽彦 氏

※以前から上板町のユースアドバイザー養成にアドバイス等をいただいていた井村良英氏（NPO 法人「育て上げ」ネット地域担当部長）にも引き続きアドバイスを受けた。

(ii) スーパーバイザー活動記録

図表 123 スーパーバイザー活動記録

回	日時	出席者	実施記録
1	9月26日	地域協議会実務担当者	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度事業報告と24年度事業について 上板町子ども若者相談支援センター（あい）の具体的な方向性及びユースアドバイザーの活用について（ケースに基づいたワークショップ）
2	11月30日	石田陽彦教授、 地域協議会実務担当者	<ul style="list-style-type: none"> 前回の実務者会議でのケース検討を受けた関連機関の連携の在り方について 顔の見える関係での予防と早期発見の仕組づくりについて
3	1月18日	井村良英氏（NPO 法人「育て上げ」ネット地域担当部長）、 地域協議会実務担当者、 ユースアドバイザー養成講習会参加者	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域協議会との連携について 地域協議会の認知度を高めるための取組について 若者の就労等に向けたトレーニングについて

回	日時	出席者	実施記録
4	2月5日	石田陽彦教授、 地域協議会実務担当者、 ユースアドバイザー養成講習会参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困難を抱える子ども・若者の早期発見・早期対応の仕組づくりについて ・ 若者の就労等に向けたトレーニングについて

(iii) 活動内容

図表 124 スーパーバイズに関する議題と具体的な取組内容

課題	スーパーバイズの具体的な取組内容
課題① 顔の見える関係での予防と早期発見の仕組づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユースアドバイザーや学校の教職員が気づいたことを早期に情報共有できるように、総合窓口の存在を学校等に知ってもらう必要がある点を確認。 ・ アウトリーチできる機関(町内外に複数存在)と子ども・若者相談支援センター「あい」との連携を密にすることについて協議。 ・ 不登校やひきこもりの親の会に、徐々に本人も来れるようにする取組をしてはどうかなどもアイデアも寄せられた。 ・ 上板町ではYA修了者ら地域の支援人材が多いという強みを活かした取組を拡大していく方向性を確認
課題② 中学校卒業後の情報を支援につなげるための仕組づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校卒業後も、子ども・若者相談支援センター「あい」は受け入れていることを中学校段階から子どもや教職員、保護者に認知される必要性を確認。 ・ 中学校卒業後の学習支援から支援を広げていく重要性を確認。 ・ 心配な子ども・若者に対して、YA養成を受けた民生委員らが見守りや家庭訪問を展開していくことを協議。そうした地域支援の仕組みの流れやゆるやかなルール(留意点等)について明確化していく必要性を確認。
課題③ 上板町独自の支援プログラムの企画・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援を重ねることに加えて、集団でのトレーニングについて具体化する必要性を確認。例えば、日曜市での出店やシルバー人材センターと連携した体験の場づくりなどのアイデアが寄せられた。

(4) 今年度事業の成果

ア 協議会運営全般での成果

(i) 予防・早期発見に向けた具体的な取組の方向性が明確化に

上板町の強みを活かした具体的な活動内容とその仕組づくりについて、すぐに取り組むことと次年度取り組むことが明確となり、関係機関で今後一層連携をとりながら、進めることを確認出来た。

すぐに取り組むこととしては、たとえば、協議会の存在や子ども・若者支援の取組についての認知度向上に向けては、町の広報誌への掲載が来年度から開始することが決まったほか、地元新聞社との調整等を行った。

また、中学校時に不登校だった生徒への卒業後のフォローアップ調査についても、準備が進んでいる。

さらには、サポステやシルバー人材センターと連携し、社会的な経験を積むトレーニングの場づくりにも着手している。

図表 125 スーパーバイズ事業において生じた成果（支援段階別）

発見・誘導	支援	出口・定着
<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援対象者やその家族向けの協議会の認知度向上（新規） <ul style="list-style-type: none"> ● 小中学校から地域協議会への相談・リファー、高校との連携強化 ● 町広報誌への定期掲載 ● 手に取りやすいところでの案内資料設置(例:図書館、トイレ) ● 新聞などのマス媒体とイベントでの広報等の組み合わせ ■ ユースアドバイザー養成研修修了者らによる地域支援（現状からの継続・拡充） <ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員らによる見守り、家庭訪問の分担、ルールの特明確化 ● 中学校時不登校だった子のフォローアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中学校卒業後の学習支援などの相談・居場所づくり（現状からの継続・拡充） <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史民俗資料館など、人通りが比較的少なく、来訪しやすい場所での支援 ■ 支援の専門性の向上（新規） <ul style="list-style-type: none"> ● 大学と連携した支援(臨床心理士ら専門家やその学生の協力) ■ 個別ケース検討の拡充（現状からの継続・拡充） <ul style="list-style-type: none"> ● コーディネータースタッフや家庭訪問・アウトリーチスタッフの配置(町単独事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会経験を積む場の充実(新規) <ul style="list-style-type: none"> ● シルバー人材センター事業の補助スタッフとしての参加 ● 日曜日などのイベントでの出店・販売経験の場設定(農家のユースアドバイザーらが協力) ■ サボステ等と連携した就労に向けたトレーニングの場の充実（新規） <ul style="list-style-type: none"> ● 実務者会議や個別ケース検討会を通じた情報共有を踏まえたトレーニング内容の検討(支援対象者個々に応じた取組を検討)

イ スーパーバイズ事業での成果

上板町のようにユースアドバイザーをはじめとする多くの住民が、予防や早期発見、また子ども・若者が社会に出るためのトレーニングの場に協力的なのは、大変な強みであることをスーパーバイズを通じて確認した。

同時に、住民主体、地域主体であるからこそ、不足しがちな専門性については、たとえば、大学と連携することにより、臨床心理や医療の専門家や大学院生らとのネットワークにより充実させていくことも、スーパーバイズを通じて気づいた点であった。

(5) 今後の課題

ア 予防的なアプローチの重要性についての説得力を高めること

地域での支援者の顔の見える関係、また町外を含めた支援機関が比較的連絡をとりやすい関係を活かして、人と人とのつながりはこの4年間で相当強くなった。

一方で、現状では連携関係がキーパーソンが異動すると弱くなる可能性もある。たとえば、中学校からの相談・リファーは理解のある校長等が異動した後であっても、継続・拡充するように、一定のゆるやかなルールや多くの成功事例を小さなことからでも、つくっておくことが重要と考えられる。

上板町では、前述した具体的な活動を今後も展開するとともに、次年度は今回検討した仕組みづくりの具体化を進める。